

組合員各位

温湯消毒済み種子の保管と管理作業について

JA あきた北央

当 JA では、安心システム米（減農薬栽培）をはじめ環境保全型農業に取り組んでおり、売り切る産地を目指して、種子消毒にも農薬を使わない温湯種子消毒を導入しております。しかし近年、全国的にばか苗病の発生が増えておりますので、配送後の種子の取扱いには十分ご配慮下さるようお願い致します。

品 種

●品種ごとに種子袋の色が違います。また、袋の中には「品種名を記したカード」を入れてありますので、品種名をよく確認して下さい。

- ・青色の種子袋 : あきたこまち
- ・黄色の種子袋 : めんこいな
- ・緑色の種子袋 : その他の品種（ゆめおぼこ・はえぬき・ひとめぼれ・ササニシキ・コシヒカリなど）

※品種名を必ず確認して下さい。

- ・赤色の種子袋 : たつこもち・きぬのはだ（もち米種子は無消毒です。カードなし）

種子配布単位

- 1袋 5kg 入れですが、一部端数もありますので袋の中のカードで量目をご確認下さい。
- あきたこまちからのお届けとなりますので、2品種以上の場合は配送日が異なります。

種子の保管・管理

- 配送後、浸種までの期間がある場合は、種子袋のまま風通しのよいところに吊るして下さい。
- 保管中は、土や汚水、無消毒種子、稲ワラ、粃殻、むしろ等に触れないように管理して下さい。また、2段重ねやビニール等で囲うと温度が上がり、カビが発生する場合がありますので、絶対に行わないで下さい。

種子の浸種

- 浸種の時期が来ましたら、そのまま水漬けして下さい（塩水選の必要はありません）。
- 浸種温度は 10℃とし、15℃以上でばか苗病の発病率が高くなります。
- 長期間の浸種や水の取り替えが不十分だと、種子の腐敗や発芽障害が発生する場合があります。
- 水道水を用いて、水の交換を 1～2 日に 1 度は確実に交換して下さい。**

【 水 漬 け の 目 安 】

品 種	温度	日数	積算温度
あきたこまち ゆめおぼこ	10℃	10 日間	100℃

温湯消毒済み種子と薬剤で消毒した種子の水漬けは、別々の容器で実施して下さい。

催 芽

- 催芽温度は 30℃付近で行います。品種により休眠に差があり、温湯消毒により出芽・発芽が早まる場合があります。催芽中は芽の動きに十分注意して下さい。

※催芽は、薬剤で消毒した種子と一緒に行わないで下さい（温湯消毒済み種子の催芽を先に実施して下さい）。

ばか苗病の発生が懸念される場合は

- 温湯消毒+タフブロック（生物農薬）の体系処理で防除効果を高めます。（例）
- 水量に対してタフブロックを 200 倍に希釈する。十分に攪拌後、種籾を投入しよく揺すって下さい。
- 催芽方法（蒸気による催芽と循環による催芽）によりタフブロックの使用方法が違います。

・水 20 ℓ ・タフブロック 100g ・種籾 20kg	・水 100 ℓ ・タフブロック 500g ・種籾 100kg
-------------------------------------	---------------------------------------

①蒸気催芽（育苗器など）

浸種の最後に実施、希釈液に 24～48 時間浸種してから催芽。

②循環催芽（ハトムネ催芽器など）

催芽と同時に 24 時間前後希釈液に漬ける。

- タフブロックの防除効果が低下するため、次の薬剤との体系処理は行えません。【ヘルシード、テクリード C、ダコニール、ダコレート、ベンレート、嵐プリンス】

播種時、育苗時、移植時、補植時など各作業工程で、異品種混入や品種の取り違えなどが無いように十分注意して下さい。